成人5人に1人が慢性腎臓病の時代。
いつもの健康診断に、もう一つの安心を。

腎臓専門医が作った、腎臓の健康管理のための検査パッケージ

じん腎ドック®

腎ドックのロゴは株式会社レノプロテクトの登録商標です

＼継続して受検される方が増えています／

2024年 20.4%、2025年 27.6%、2026年 37.2%

※各年の受託検査数に占める継続受検者の割合。2026年は1～9月までの実績

＼結果を読み解き、一歩先へ レノプロテクト腎ドックなら／

多角的評価 複数の検査で腎臓の状態を詳細かつ多角的に評価

新しい指標 新指標『ウロモジュリン』で腎臓の『体力』を見える化

個別コメント付き報告書 専門医があなただけの詳細な個別解説コメントを作成



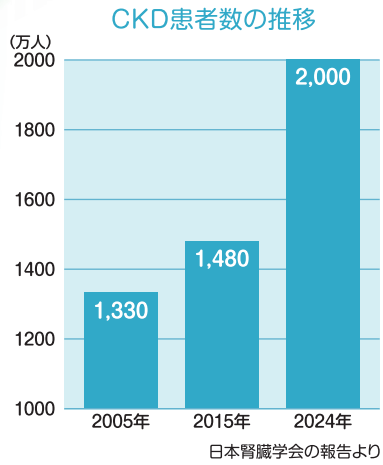
＼ひとつでも当てはまったら、腎ドックでチェック！／

- ☐ 健康診断で腎機能「C判定」がついたことがある
- ☐ 「クレアチニンが少し高め」と気になっている
- ☐ 高血圧症・糖尿病・高尿酸血症の治療中
- ☐ 40歳以上で濃い味が好き
- ☐ 激しいスポーツや筋トレで汗をよくかく
- ☐ 脱水症や熱中症で倒れたことがある
- ☐ 痛風や尿管結石症で激痛の経験がある
- ☐ 体格がかなり大柄、もしくは、かなり小柄
- ☐ 妊娠高血圧症候群を発症したことがある
- ☐ 健康診断で毎年問題ないと言われている

RenoProtect

慢性腎臓病（CKD）は、早めの対策が肝腎（かんじん）です。

CKDは『eGFR60未満や尿検査異常が3か月以上持続』することで診断される慢性疾患です。患者数は2,000万人にのぼり、成人の5人に1人が該当します。腎臓は「沈黙の臓器」と呼ばれ、放置しておくと、症状がないまま進行し、血液透析に至ることもあります。さらに、心疾患や脳卒中、骨粗鬆症、認知症や感染症のリスクが高まることが知られているため、「早期発見」がとても大切です。一方で、失われた腎機能は回復しないだけでなく、加齢に伴い緩やかに低下していくため、可能な限り、「健康な時からCKDを予防」していく意識も重要です。



日本腎臓学会の報告より

	クレアチニン	シスタチンC	ウロモジュリン
得意	腎機能低下が進行した状態のチェックが得意	クレアチニンよりも未病段階の腎機能評価が得意	腎臓の『体力値』を見える化する新しい検査
不得意	腎機能が半分近く減るまで変化が出にくい	腎機能が低下すると利用価値が低下する	腎機能の推定が苦手

3つの検査の特徴と選択

腎機能は、一般的にクレアチニンから算出される推算糸球体ろ過量（eGFR）で評価します。しかし、クレアチニンは、腎機能が半分近くまで低下しないと測定値が上がりにくい性質があります。そのため、毎年健康診断を受けていても、「腎機能低下をはじめて認識した時点で半分しか残っていなかった!」ということが起こり得るのです。健康な時には、未病段階の評価を得意とする検査（シスタチンC・ウロモジュリン）を選択することも有用です。

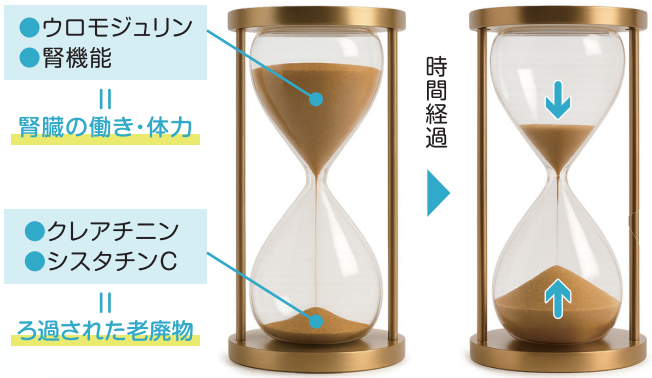
砂時計でわかる！ 腎機能検査の違い

腎機能は加齢に伴い緩やかに低下し回復することはありません。
これはまさに砂時計のようです。

●上段の砂（ウロモジュリン）：
落ちる前の「砂（腎臓の体力・予備力）」を直接測定。

●下段の砂（クレアチニン・シスタチンC）：
落ちて溜まった「老廃物の量」から、腎機能を推測（eGFR）。

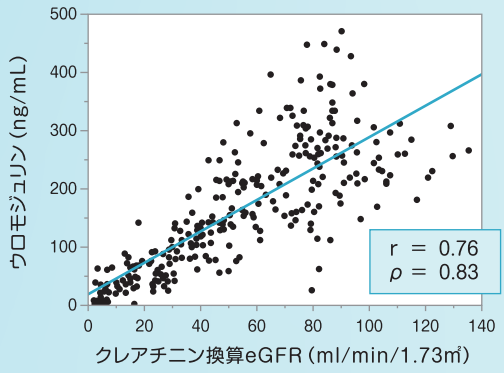
従来の検査（下段の砂）だけでは気づけない
「上段の砂の残り具合」を直接測れるのが、
ウロモジュリンの大きな特徴です。



ウロモジュリンのご紹介

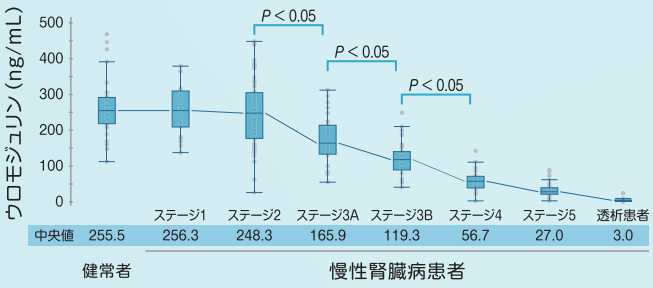
ウロモジュリンは腎臓でのみ作られる臓器特異性の極めて高いタンパク質で、この血中濃度が腎機能（eGFR）と高い正の相関関係にあること（血中濃度が高いとeGFR値が高く、血中濃度が低いとeGFR値が低い）が複数の研究者から報告されています。

筋肉由来のクレアチニン、全身の細胞由来のシスタチンCは、腎機能の評価にあたりeGFRを計算する必要があります。一方、ウロモジュリンは測定値をそのまま腎臓の体力・予備力ととらえる検査です。



CKDステージ別に血中ウロモジュリン中央値を解析したのが下図です。腎臓病のステージが進むとウロモジュリン濃度も下がることが把握できます。
明確な基準値はありませんが、一般的な傾向は次の通りです。

ウロモジュリン値	腎機能・腎体力の目安
200ng/mL以上	良好（eGFR60以上の方を目安）
150ng/mL未満	低下の可能性（eGFR60未満を示唆）
40ng/mL未満	高度低下の可能性（eGFR15未満を示唆）



Usui R. Clin Exp Nephrol. 2021;25:28

腎ドック® のラインナップ

- 医療機関によって受けられるプランや検査内容が異なる場合があります。
- 保険証が使えない自由診療検査です（費用は医療機関にご確認ください）。

一般的な健康診断

- クレアチニン
- eGFR
- 尿蛋白（定性）

腎ドック® スタンダード

- クレアチニン
- クレアチニン換算eGFR
- シスタチンC
- シスタチンC換算eGFR
- ウロモジュリン
- 尿素窒素
- 尿蛋白（定性・定量）
- 尿潜血（定性・沈渣）
- 尿アルブミン（定量）
- 推定塩分摂取量

無料オプション検査
24時間クレアチニンクリアランス・疾患感受性バイオマーカー

腎機能チェック
慢性糸球体腎炎スクリーニング
1日塩分摂取量評価
時系列データ*

腎ドック® エントリー

- クレアチニン
- クレアチニン換算eGFR
- シスタチンC
- シスタチンC換算eGFR
- ウロモジュリン

腎機能チェック
時系列データ*

*リピーターにのみ提供されるサービスです。

＼腎ドックの基本プラン／

スタンダード：健康診断では見逃されやすい腎臓の小さな変化まで詳しく知りたい方へ

- 腎臓の状態を多数の検査で多角的に徹底分析
- 専門医による丁寧な個別解説コメント付き報告書
- 継続受検者には時系列データの解説も付記
- お寄せいただいた質問や相談にも丁寧に回答

腎ドック® ライト

PreMedica × RenoProtect 共同開発





＼手軽にしっかり調べたい方へ新登場！／『腎ドックライト』

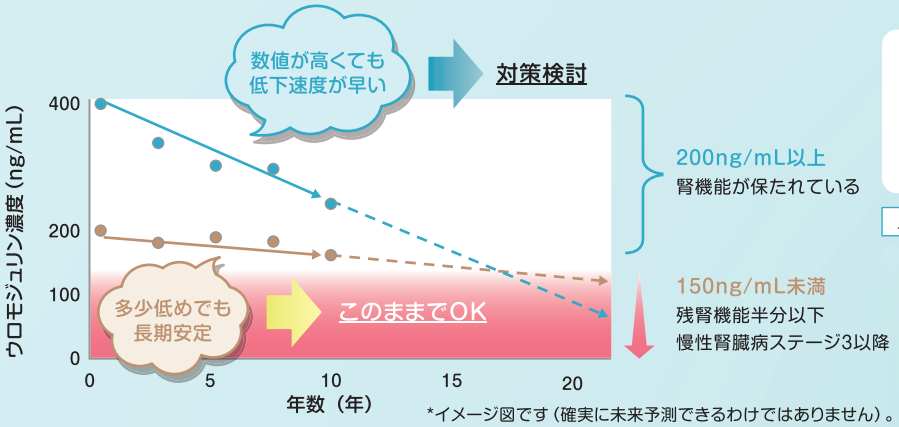
腎臓の「体力判定（ウロモジュリン）」と「ろ過力判定（eGFR）」の2つの視点からシンプル&スピーディーに評価。腎臓専門医監修の総合アドバイス付きで、手軽に詳しく知りたいあなたに新しい選択肢を提供します。

測定項目：クレアチニン・シスタチンC・ウロモジュリンの3点測定
補足：ろ過力判定では、クレアチニン換算、シスタチンC換算、クレアチニン・シスタチンC併用の3つのeGFR値を提示します。

ウロモジュリンの利用方法

ウロモジュリンは、いわば『腎臓のヒットポイント（体力値）』です。生まれ持った腎臓の体力値には個人差があります。健康な方におけるウロモジュリン値は一般に200～400ng/mL程度の幅があります。大切なのは他人との比較ではなく、ご自身の推移を確認することです。

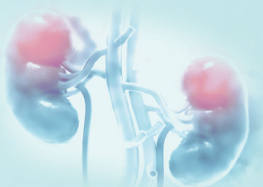
腎機能が加齢に伴い緩やかに低下するように、ウロモジュリンも長期的には徐々に低下します。早いうちに腎臓体力値を確認し、以降の生活習慣の見直しを含めた腎臓病予防にお役立てください。



*イメージ図です（確実に未来予測できるわけではありません）。

クレアチニン・シスタチンCにウロモジュリンを追加することで腎臓をより詳しく評価できます。

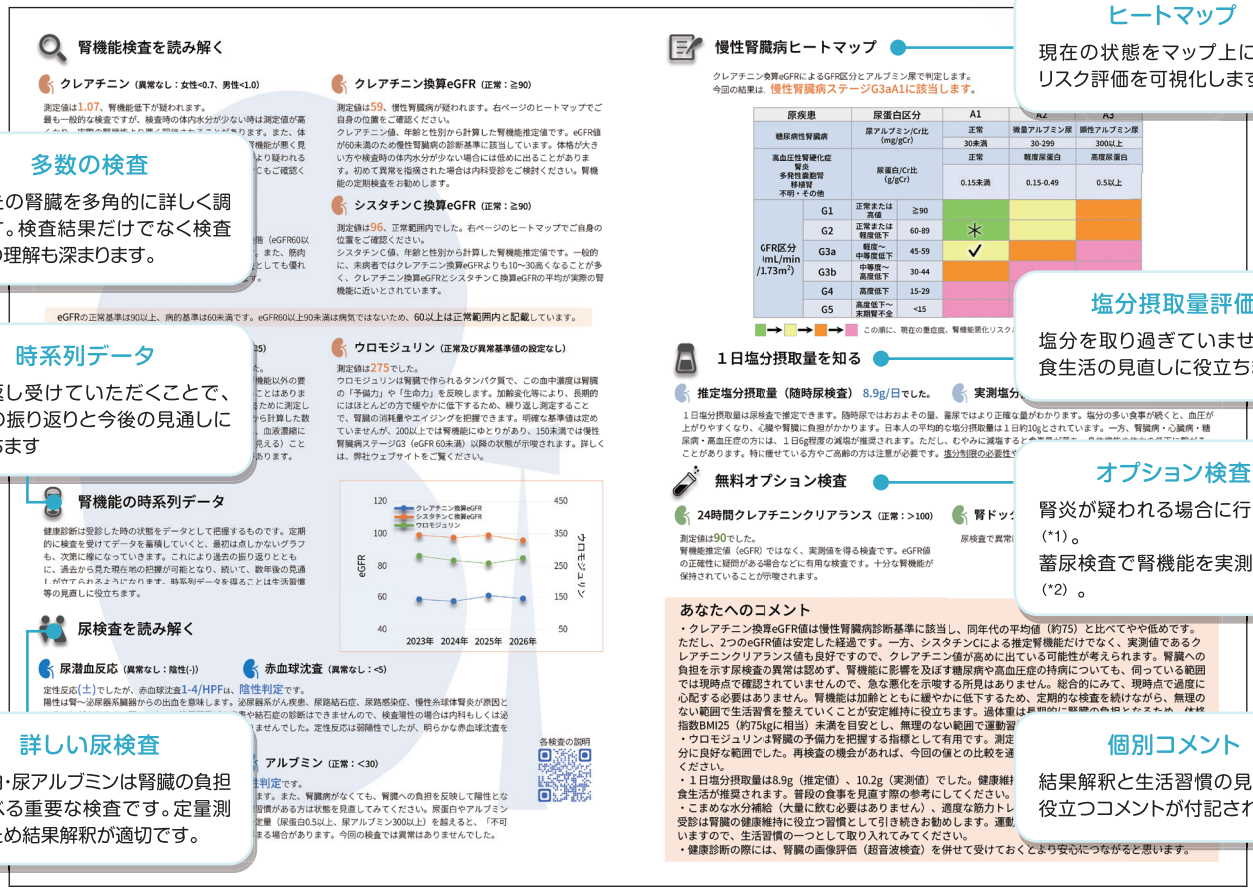
血中ウロモジュリン測定は、研究検査です。





ウロモジュリン測定の関連特許
第7130313号・第7566097号・第7577170号

結果報告書サンプル（腎ドックスタンダード）



*1. 検査実施判断は弊社にて行います。
すべての腎炎に対応はしておりません。2026年10月現在、IgA腎症研究で注目されているGd-IgA1のみ採用。
*2. 医療機関によってお取り扱いがないことがあります。

結果報告書のデザインは実物と異なることがあります。
また、デザインや内容は変更することがあります。

検査の受け方
（腎ドックスタンダードの場合）

「尿検査・血液検査」で行えるので所要時間は短時間です。
事前の食事・水分制限はなく、当日受付で受けられます。
健康診断や人間ドックのオプションとして追加可能です。
（※蓄尿検査を行う場合は事前予約が必要です）

＼受診後も安心／

腎臓専門医によるオンライン相談（有料）

「検査結果について医師から直接詳しく聞きたい」
「今後の生活習慣について相談したい」という方へ。
30分間、腎臓専門医が丁寧にお応えします。
腎ドック受検者様限定の特別価格で
ご利用いただけます。
詳細はホームページをご確認ください。

腎臓専門医による相談サービス

多少キズがついても無症状… それが腎臓の強さです。でも、
気づいたときには腎機能は半分… それが腎臓病の怖さです。
心配な方はもちろん、「自分は大丈夫！」と思っている方にも、
今、受けていただきたい大切な検査です。

腎ドックは慢性腎臓病を判定する検査ではありません。
必要に応じて医療機関を受診し、医師の判断や指示を受けることをお勧めします。

RenoProtect
株式会社レノプロテクト
https://www.renoprotect.co.jp
inquiry@renoprotect.co.jp